

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 2 4 年度病害虫防除情報第 1 3 号

施設野菜の病害虫対策についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**施設野菜でアブラムシ類の発生が多くなっています。
今後の発生状況に注意し、早期発見・早期防除に努めましょう。**

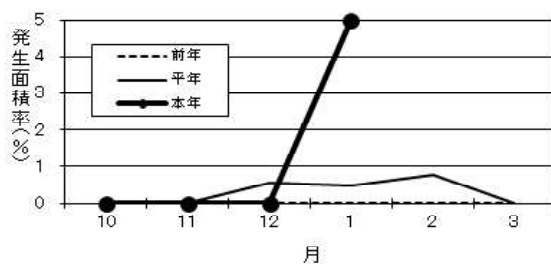
1 作物名 施設野菜全般

2 病害虫名 アブラムシ類（主にワタアブラムシ）

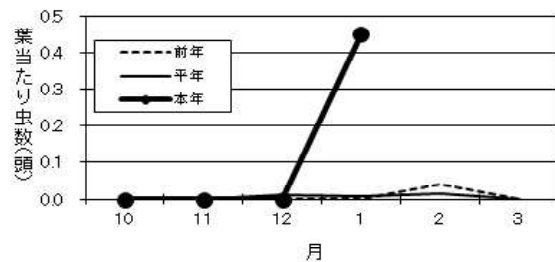
3 発生状況（経過）

- 1) 1月の巡回調査における冬春きゅうりでの発生状況は、発生面積率が5.0%（平年0.5%）、葉当たり虫数が0.5頭（平年0.01頭）で、いずれも平年より多である。
- 2) 冬春ピーマンでの発生状況は、発生面積率が23.1%（平年0.7%）、50芯当たり虫数が13.8頭（平年0.01頭）で、いずれも平年より多である。
- 3) 冬春いちごでの発生状況は、発生面積率が30.8%（平年24.3%）で平年並、寄生株率が6.8%（平年3.2%）で平年より多である。
- 4) 宮崎市佐土原町に設置した黄色水盤では、1月第2半旬に33頭（平年9.7頭）の誘殺が確認されている。
- 5) アブラムシ類は植物体への直接的な被害やスス病発生の要因になるとともに、各種ウイルス病の媒介により更に被害を拡大させるため、適切な対応が必要である。

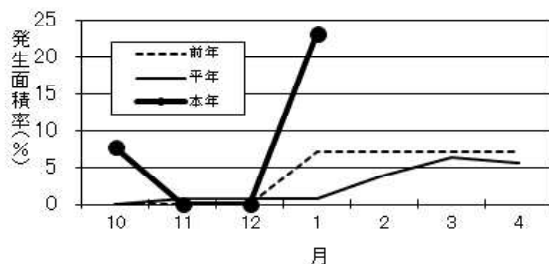
アブラムシ類(きゅうり)



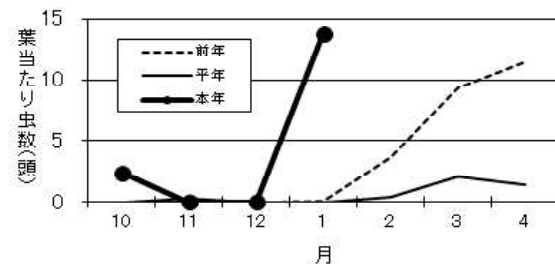
アブラムシ類(きゅうり)

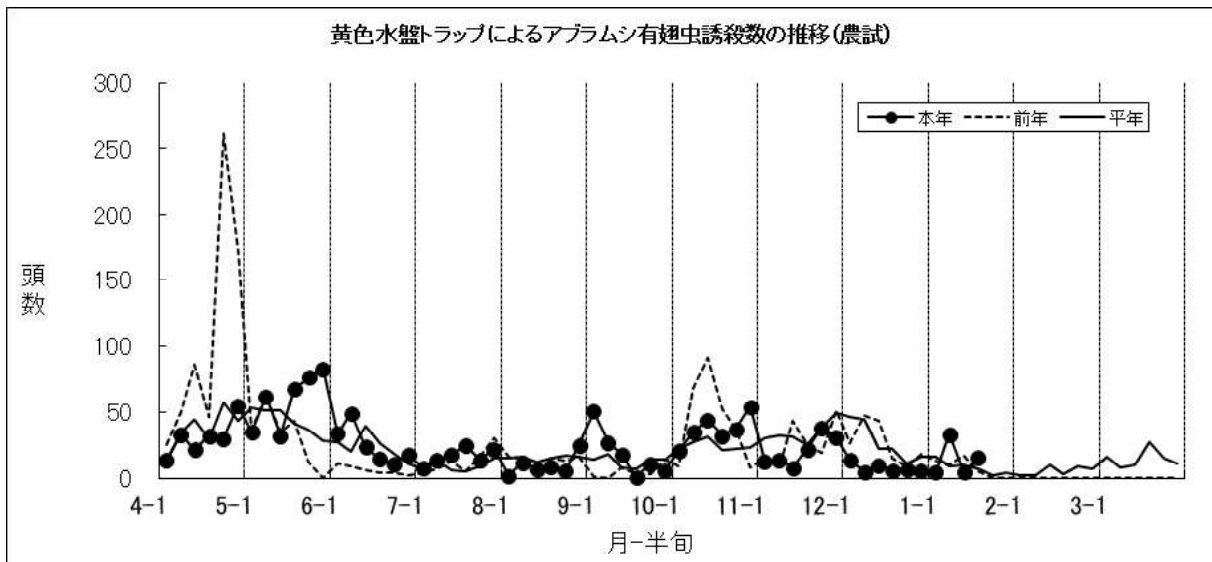
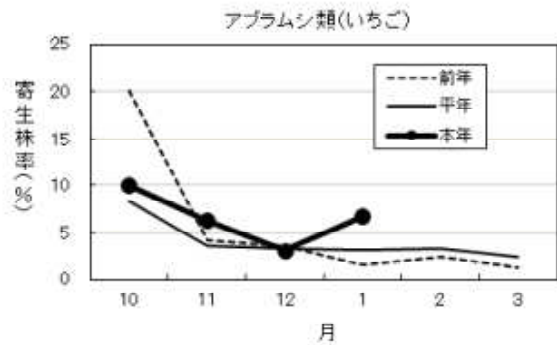
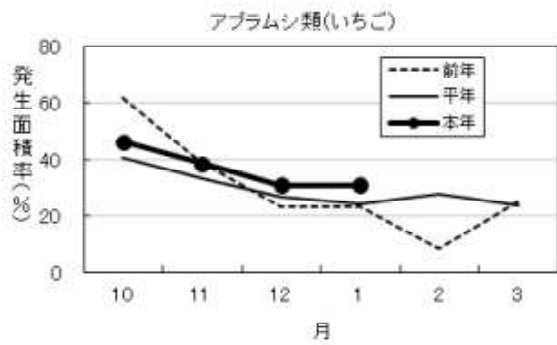


アブラムシ類(ピーマン)



アブラムシ類(ピーマン)





4 防除上の注意

- 1) きゅうり、ピーマンでは、県内でいくつかの薬剤に対して感受性が低下したワタアブラムシが確認されている。有効な薬剤に対する感受性低下を回避する観点から、同一系統薬剤の連用は避け、系統の異なる薬剤のローテーション散布に努める。また、昆虫寄生菌等の微生物農薬や気門封鎖型殺虫剤等を防除体系に組み込み、効果のある薬剤の温存に努める。
- 2) 薬剤散布後は十分にその効果の確認を行い、効果不足が疑われる時には系統の異なる薬剤の追加防除を実施する。
- 3) きゅうり、ピーマンにおけるワタアブラムシの薬剤感受性については、同日発表の平成24年度病害虫防除情報第14号を参照する。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 壹岐

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>